第 3 章　観光分野における現代的諸課題

UNWTO（世界観光機関）の統計によれば、2007 年に、世界の総国際観光客到着数は 9 億人を超えた。国内観光客はその 10 倍くらいあり、世界的な大量観光移動の時代に入っている。今後アジア諸国をはじめ、まだまだ新しい観光市場として台頭してくる国々もあるだろう。こうした未来展望に関連して、是非見ておきたい三つの分野の課題を採り上げておきたい。第一が、国際旅行商品を購入する消費者の保護の問題、第二が、観光開発と環境破壊に関する問題、第三が、比較可能な観光関連の調査と統計の創出に関する問題である。それぞれについて、テーマ別の論集に採り上げたので、ここでは概要のみ紹介する。

国際観光の消費者保護

旅行商品の生産と流通、及びその特性について前項で説明した。旅行商品は事前に内容を確認しないで前払いするという特殊な商品であるだけに、業者が倒産すれば、支払い済みの予約客が旅に出られなかったり、外国の観光地に置き去りにされたり、といった事態が発生する。商品の見本であるパンフレットの説明と大きく違えば問題になるし、事故やミスなどが起こった場合の第一次責任を誰が負うか、などの難しい問題もかかえている。ヨーロッパでは 1992 年に EU の理事会指令によって EU 諸国共通のルールが導入され、国際観光の消費者保護の問題は解決済みのようにも見えたが、その後の観光産業界の動きは活発で変化が激しく、近年になって改めて見直し作業が行われている。

とくに IT 技術の発展により、旅行商品の作られ方が伝統的なパッケージ旅行からダイナミック・パッケージのような限りなくセルフメイドに近いツアー商品まで作られるようになって、そもそも不特定多数に市場生産品を販売することから始まった旅行大衆の保護の対象をどこまでにとどめるかなど、本質論に踏み込んだ議論が行われている。そうした動きの内容についても、テーマ別論集「国際観光の消費者保護」に詳述したので参照していただきたい。

観光開発と環境

1992 年にリオデジャネイロで開催された「開発と環境に関する国連会議（地球サミット）」において、地球環境をこれ以上悪化させないための人類の行動計画「アジェンダ 21」が採択され、各分野でそのための試行錯誤が行われている。

観光と環境の問題の発生は古く、特定観光地の劣化とその対策というレベルであったが、観光客の大量の来訪が観光地の自然環境を破壊ないし劣化させるという認識は早くからあって、様々な取り組みが行われてきた。それゆえ「アジェンダ 21 に」示された持続可能な開発というコンセプトに一番早く反応したのが観光産業であった。1995 年には「観光分野のためのアジェンダ 21」を作成し、これまでばらばらに対応してきた観光地の環境対策を統一して行う道筋がつけられた。いずれにしろ、個々の観光地や観光業の取組みの集積こそ全体としての地球環境の悪化を防ぐ唯一の道であることに違いはない。そのためには官民の協力のみならず、旅行者（消費者）個人をも含むパートナーシップの体制が必要であ

るし、技術やノウハウの交換が不可欠であり、そしてそれが可能な分野こそ観光であるともいえる。

観光は、生存の基礎的欲求を超えるニーズであり、豊かさの象徴である。先進国から途上国のリゾートに出かける観光客は、大量の燃料を使用する航空機に乗り、立派な滞在施設に寝泊まりして地元住民の 10 倍の真水やエネルギーを消費し、他産業の生産する財・サービスをもふんだんに消費する最大にして最贅沢な消費者といっていいい。たしかに観光は煙を吐き出して大気を汚染したり、森林を焼き払ったりといった目に見える破壊行為をしていないようにみえるが、地球環境保全という大テーマのもとでは、無統制のまま放置しておくことはできない。環境は観光を支える最重要要素であり、過剰開発によって衰退していった観光地の事例にこと欠かない。

観光はまた、開発の遅れた途上国や先進国の辺境や過疎地帯の経済活性化のために残されたほとんど唯一の可能性ある産業として期待されており、総体として地球環境の保護に関わり方もち、特殊な形の責任を担う産業である。観光開発と環境に係わる詳細は、テーマ別論集「観光開発と地球環境」で取り扱った。

観光分野の調査と統計

産業分類の中に観光産業という項目はない。産業はそれぞれ生産するものによって定義づけられ、その生産物の量と質によって評価されるが、観光の生産物とは何なのかがそもそも問題である。観光産業の生産物は多くの分野に分散していて統計的に把握するのが不可能に近いというほどに困難なのである。

観光統計は自由な人の移動と消費額を推計しようとするもので、確たる数量チェックの方法がない分野である。人の往来については、観光客の任意の行動を何らかの方法で分類し計量するのだが、データの収集方法や内容を統一することが困難で、個別にとられた統計は比較のしようがない。

精度の高い統計を作成するのが困難である一方で、巨大化した観光産業では、将来計画の作成や、投資、マーケティング活動のためにもデータが不可欠である。可能な限り現実に近い推計を得る必要があるため、観光統計の作成については国連レベルで長年研究と手法の開発が行われてきた。近年その意味で大きな転換期を迎えており、その歴史と問題点は、テーマ別論集「観光統計の話し：始まりと現状と今後の展望」で解説した。